

トシテ不日ニ服セシメシニテモ見ルベシ鴨別ハ兄媛ノ兄弟應神ノ時始メテ一
 縣ヲ賜ワル此時ハ官軍ニ從ヒ行シニテ國造ニハアラズ
 國造神祇部に見へたるは職原抄にも以神祇官置諸官上以我朝神國なるを重天神
 地祇故也また天種子命專主祭祀事是乃執朝政之義也神皇正統記曰祭を司るは政
 を執也政の字よみにても知へし日本書紀綏靖帝皇兄神八井耳命曰吾當爲汝輔之
 奉典神祇また神武紀救道臣命今以高皇產靈尊朕親作顯齋カウツクイ用汝爲齋主また孝德紀
 詔問治民之方右大臣石川麿奏先崇祭祀之禮而後議政事云々かくのごとく尊き職
 掌なれば國司郡領と同じからぬ筈也又初祭政を兼司後國司を補せられて祭政二
 ツと成たる事前に云へり又桓武帝の朝郡領を帶て此頃勢ひを得しと有とも孝德
 紀にも大領に用ひられし事又前にいへるがごとし上古無事なりとて後々のよふ
 ころあらめ祭政を司とり給ふ身の政事に拘り給はずといふ事有べからず舊事紀
 に誅戮逆者と有はいかに四道將軍を命せられしを以てしかいは後世文室綿丸
 坂上田村九藤原忠文小野道風藤原利仁の属皆國司有なから任せられて叛者を討
 し給ひき又七十餘子はとくより國々に住給へれば其中に幹了なる人撰ばれて首
 長とも成給へればこそ國造縣主にも任ト給ふなるを七十餘王は跡かたもなく亡

ひ給へるかなど、はいか成考にやあらん

三書ヲ併セ見テ書紀ハ諸書ヲ集テ折中有シモ知ラル舊事紀ノ僞書タル事ハ今
 云事ヲ俟ツレト主張スル事アル故爰ニ贅ス崇神天皇十年四道將軍ヲ置レ吉備津
 彦西道ヲ治メ給ヒ子孫三備ノ間ニ散在ス同四十八年豐城命ニ東國ヲ治メシメ給
 フ上毛野君下毛野君ト見ヘ景行末年詔御諸別王曰汝父彦狹島王不得向任所而
 早薨故汝專領東國ナト見ユ是等若封建ナラハ子孫一方ノ大藩ニテ周末ノ晋楚近
 時ノ大内尼子ガ如キ者有ヘキニ上ニ引タル御友別鴨別姓氏錄ニ載タル上毛野君
 下毛野君ノ子孫ノサマニテモ然ラザル事ハソノ語ニテモ封建ニ非ザ
 ル事ハ明ケシ其地ニ官遊シテ家ヲ其地ニ移シ或ハ子孫ヲ其地ニ殘スハ和漢其例
 シ多シ必ズ提封有テソレヲ襲フニハ非ズ
 仁德ノ時既ニ國司アリ孝德ノ詔前ニ舉タルガ如シ然ルニ百四十四ノ國造此兩朝
 ノ後ニ置レタルモ多シ其前後被誅戮逆者事數多ノ武官ヲ率ヒタル國司ヲハシ置
 國造何ノ威力有テ爲メケンヤ兩朝以前ノ事ハ前ニ辨ス又外藩ヲ治メ給フニ任那
 哆利等ノ國司ハ置レタルト國造ヲハ立給ハズ是其職掌異ナリテ叛者ヲ誅戮スル
 ナドノ事ハ國造ノ任ニ非レバ也彼是ヲ見テ其誤リ思フベシ

逆ふ者を誅戮の語は固より國造祭政を兼し時にて國司の名始めて仁徳の朝に見へしと雖も此時はいまだ祭政二途の制定ならず國司國造並稱せしは推古紀に至りて始めて見へし也また景行七十餘王皆封國郡各知其國又御友別鴨別等三備の諸縣に封す封建ならずして何ぞされど其世のさまを今の封建に併せんとするから或ひも出來ぬや

繼體天皇二十一年夏六月近江毛野臣率衆六萬欲往任那爲復興建新羅所破南加羅隊已吞合任那於是筑紫國造磐井陰謀叛逆猶豫經年恐事難成恒伺間隙新羅知是密行貨賂于磐井所而勸防遏毛野臣軍於是磐井掩據火豐二國勿使修職外邊海路誘致高麗百濟新羅任那等國年貢職船內遮遣任那毛野臣軍亂語揚言曰今爲使者昔爲吾伴摩肩觸肘共器同食安得卒爾爲使俾余自伏爾前遂戰而不受驕而自矜是以毛野臣乃見防遏中途淹滯天皇詔大伴大連金村物部大連鹿鹿火許勢大臣男人等曰筑紫磐井反掩有西戎之地今誰可將者大伴大連等僉曰正直仁勇通於兵事今無出於鹿鹿火右天皇曰可云々二十二年冬十一月大將軍物部大連鹿鹿火親與賊帥磐井交戰於筑紫御井郡旗鼓相望埃塵相接決機兩陣之間不避萬死之地遂斬磐井果定疆場十二月筑紫君葛子恐坐交誅獻糟屋屯倉求贖

死罪云々

是ヲ見ルニ自餘ノ國造豈悉ク此勢アラシヤ平賊將門關東數國ヲ掩取テ勢ヲ振ヒ新ニ王城ヲ造リ僞百官ヲ建ツ同シ時藤賊純友モ山陽南海諸國ヲ掠メ始メヨリ船二千餘艘ヲ左右ス二人共ニ一國ノ國主ニシテ至ラヌ者也然レトモ反逆スレバ暫ク此大衆ヲ擁ス同時郡國ノ吏名門ノ子弟此二賊ト祿位同敷人幾ハクカ有シ豈悉ク二賊カ勢力アラシヤ反人ハモトヨリ尋常ニ非ズ是ヲ尋常ノ人吏ニ比スベケンヤ磐井カ勢力カクノ如クハ暴漲暫ク石ヲ漂ス也是ヲ尋常國造ノ身ノ程ニ比スルノ理アラシヤ彼書ニ古昔ノサマヲ云ニヨリテ爰ニ引證シ且辨シテ昔ノ國造ノサマヲ思シム

今按の説のごとく磐井が例を以て自餘國造には比しがたし一郡一縣微少の國造も有べくまた上道斐太都和氣の清磨のごときも有べきなりされば上件の趣を斟酌して本邦の古しへ國造のさまを諒知すべし

日本紀通證曰本邦之制以封建也舊矣

海東諸國記曰日本其地始處々保聚各自爲國其始祖狹野起兵誅討始置州郡大臣各占分治猶中國之封建蓋此自神代而然非助乎神武東征時也景行紀所謂七十

餘子皆封國郡各如其國亦是也

至此孝德帝始建郡縣之制故特有此盛詔凡設百官殊徽號改服飾叙禮樂皆成乎孝德天智之間蓋太古同三代之制中古倣漢唐之制也以封建則國造治之乃世官以郡縣則國司治之有年限

國造之名起于神武ノ時詳于國造本紀國司之名始出仁德紀並稱國司國造始見推古紀續日本紀曰大寶二年詔定諸國國造之氏其名具國造紀

封建之世也上自天子下至國造幽顯非二民神同主是以國造祭其國社治其民人以藩屏王室國造本紀所謂惣任國造百四十四國是也

國社乃開國之神而國造其神之裔孫故國造訓久邇乃美耶都古謂國之宮司也及郡縣之制起乃祭政岐爲二途國司專執政國造專奉祀

國司訓久邇乃美舉等毛知國宰亦同蓋持命之義言御命自天朝降也桓武紀曰國造兼帶神主

於是國司擁威柄而國造勢亦微矣故有國司率國造國造補郡司見孝德紀及令或以爲國造乃國司舊名者不是矣

制度通云職原鈔大全曰至成務天皇始開國郡別封境始置國造但上古以國守皆云國

造至皇極天皇時始改國司歷代皆云國司至文武天皇改國司爲國守但國造名自神武之時有之諸國立國造成務始也

職原大全の説何に據事を知らず日本紀を考ふるに皇極帝より以前仁德帝の世に遠江國司表して上言すと云事有崇峻帝の世に河内國司即依符旨と云事有皇極帝の本紀に國造を國司と改る事見へず推古帝十二年聖德太子十七憲法に國司國造勿斂百姓と有又天武帝の本紀に諸の國司國造郡司及百姓等諸可聽矣と有しかば古しへは國々に國造有て其後國司を任し給ひ國司國造と並び置ると見へたり其内國司の權國造より重くなりし故に國司國造と並稱せらる、也此より後世々の國史に國司國造と云事所々に有て後世迄も國造の名有國造を改めて國司とするにあらず

鍛冶屋山

大井村にて上足守村に跨る也山の北西に其地名を呼て鍛冶屋敷又正弘或は金床山等の名有ば昔刀鍛冶なき居たりしにはあらずや

弓箭山

大井村の内弓箭と云地の上の山なり 秀雄云鬼城縁起に吉備冠者鬼の城の麓

五四	五二	四九	全	四七	三六	三三	二八	全	一八	全	一三	全	一一	一〇	全	六	頁
一	九	二	八	四	四	〇	七	一〇	一〇	二	八	四	三	〇	四	一	行
腰堀切を	江洲	して	冠山城へノ下ハ入	藏打	鳥居	帆	終	太くたノ下ニ	所ノ下ニ	雅峯高ノ下ニ	藤榮ノ系紀林ニ續クベキナ利安ニ續クハ誤ナリ	元年ノ下ハ	俊長	七月	大岡記ノ下ハ	一篇	誤
腰堀切を	江州	しと	藏を打	鳥居	帆	纒	くナ脱ス	へナ脱ス	除ク	十月	十月	十月	十月	よ	三篇	正	

一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	頁
九	三	六	二	二	一	四	七	四	七	一	一	八	四	六	二	八	行
創を	鳥井	種	庭にも下	どノ下ニ	江	鳥那	衛門	卿	延寶	村上	有も	かて	マスカメ	壁	苦し	悉へ	誤
創す	鳥居	撞	しは衛字	也ナ脱ス	江	鳥那	衛門	郷	延寶	浦上	有と	かくて	マスガメ	壁	苦し	悉く	正

備中誌賀陽郡卷之上正誤

足守郷に的場を築て常に的を射てける依て弓矢といふ名有又的場の跡を今馬場山と云此所は矢取の神の舊趾なりといふ往古此地も海濱にて吉備津内宮百田弓箭姫と申すも此弓箭山に山緒なきにや

馬場山

弓箭山の南方の山也前に記せる矢取神の舊趾なり

亥の鼻山 又井幡山とも云

秀雄云昔加陽國造有し時館より亥の方角に當るに依て云し成べし鼻とは海濱の稱なれば也愚按に讃岐象頭山は形ち象に似たるより名付也此山も猪の鼻に似たるにはあらずや

大井川 一名加陽川

大井郷を経て流る、より大井川とおもへど實は大堰川にて村名の大井と云も大堰の心成べし昔は日近より上を大井川といひ又粟井村より上をいひしともいふ足守より南は中昔より新開と成て川も出來しより今は足守の下流をもしか唱へしなり

正保四年の記に云大井下の渡り廣サ十一間深一尺上の渡り廣サ十一間深サ一尺

一五七	全	全	一五四	一五三	全	全	一五二	全	一四九	全	全	一四八	一四七	一四六	一三二	一三一	一二七	一二四	頁
六	四	二	一	一三	一四	全	四	二	一	一四	一三	二	四	七	一	二	七	二	行
縁紀	釜ノ釜	呻	龜	喰ノ肉	裏ノ下	被	連	發	元	及	及	及	嶺	蛇ノ下	盲目ノ下	燒亡ノ下	録	觀音寺	
縁起	鬼ノ釜	呻	龜	喰ノ肉	二ヲ脱	被	連	廢	元	及	及	及	嶺	ケ	ハ	の	祿	院	正

一八一	全	全	全	一七九	一七二	一七二	一六九	全	一六七	一六五	一五七	全	全	頁
三	一五	一三	二	六	一三	一三	五	一四	一	一	一四	一三	八	行
なくてノ下ハハ	定ノ下ハ	造ナノ下レハ	定	卒ノ下	段ノ下ハ	段ノ下ハ	施捨ノ下	駐	佳氣	佳氣	僧	紀	紀	誤
ナ	ナ	ハ	マ	下	ハ	ハ	下	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	正

明治三十七年四月廿二日印刷
 明治三十七年四月卅一日發行

(非賣品)

岡山縣

印刷者 岡山市大字船頭町三十七番地 安井宇吉

印刷所 岡山市大字西中山下百五十四番地 山陽活版所

93
257



93

457

Ⓜ

025949-001-9

93-257

備中誌

岡山県

1冊

M35-37

ADC-3524

